教 育 研 究 業 績 書

令和 8 年 3 月 31 日

氏名　田 中　洋 一

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 1.e ポートフォリオを利用した知識創造サイクル	共著	平成 29 年 2 月	教育工学選書Ⅱ『教育分野における e ポートフォリオ』	e ポートフォリオ･リテラシースキルに基づき授業を設計した上で，SECI モデルに基づき暗黙知と形式知のサイクルを設計することにより，学習コミュニティが活性化され，知識創造サイクルが促進する事例を報告. 第６章「e ポートフォリオと学習コミュニティ」共著者：山川修，田中洋一 本人担当：6.4（pp.141-156）
（学術論文） 1.ID 理論を用いた科目「生活情報論」の再設計	単著	令和 8 年 3 月	仁愛女子短期大学研究紀要第 58 号	本学生活科学学科の生活科学基盤科目「生活情報論」の授業設計を「10 の Instructional Design 基礎用語」にもとづき分析・改善した再設計に関して報告.
2.安心への３つのアプローチを用いたキャリア教育の授業設計：進路選択自己効力とストレス対処力との相関	共著	令和 7 年 11 月	JSiSE Research Report, vol.40, no.4, pp.90-93	安心・安全への３つのアプローチとして，マインドフルネス，プロセス・エデュケーション，ライフデザイン・ポートフォリオを用いた大学初年次キャリア教育を授業設計したところ，進路選択自己効力及びストレス対処力がどのように変化したかを報告. 共著者：田中洋一，山川修 本人担当：授業設計及び評価
3.ライフデザイン・ポートフォリオ作成ワークショップに NVC のニーズを取り入れた効果	共著	令和 7 年 7 月	JSiSE Research Report, vol.40, no.2, pp.58-62	安心・安全への３つのアプローチを用いた大学初年次キャリア教育の授業設計，特にライフデザイン・ポートフォリオ作成ワークショップにおいて具体と抽象を往還するために，NVC（非暴力コミュニケーション）のニーズリストを取り入れた効果を報告. 共著者：田中洋一，山川修 本人担当：授業設計及び評価
4.プロジェクト型学習支援ロールプレイ教材への解決志向アプローチ導入の効果	共著	令和 7 年 3 月	JSiSE Research Report, vol.39, no.7, pp.88-93	プロジェクト型学習支援ロールプレイ教材「Project 勇者」の解決志向アプローチ版の効果を報告. 共著者：白澤秀剛，田中洋一，甲斐晶子 本人担当：プロジェクト型学習授業での実証実験
5.存在論的安心尺度の試作-ギデンズを手がかりとして-	共著	令和 6 年 7 月	JSiSE Research Report, vol.39, no.2, pp.114-117	ギデンズの「存在論的安心」を測定する心理尺度を試作し，短期大学生に対してプレ調査した結果の報告.

				共著者：田中洋一，磯和壮太朗，石井雅章，多川孝央，山川修 本人担当：プレ調査
6.データサイエンスに関する非同期型遠隔授業の設計	共著	令和6年3月	仁愛女子短期大学研究紀要第56号，pp.15-22	「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル)」へ申請する文系短期大学独自プログラムの授業設計及び学習支援システムの活用方法、特に動機づけとして用いた「ゆっくり解説」の評価に関して報告. 共著者：田中洋一，辻岡和孝，内田雄 本人担当：全体の授業設計
3.フィードバック誘起モデルの開発：量的アプローチによる推計式の試作	共著	令和6年3月	情報処理学会研究報告Vol.2024-CLE-42, No.20, pp.1-6	自己成長を促すフィードバック(FB)をいかに引き出すかに着目し，学習者がどのような準備をしてFBを誘起するかについてモデル化した推計式の妥当性を検証. 共著者：可部繁三郎，田中洋一，山田政寛，石毛弓，山本佐江，合田美子 本人担当：モデルの検証
4.プロジェクト型学習支援ロールプレイ教材の実証試験結果-プロジェクト全体像把握と不安のサポート訓練-	共著	令和6年1月	JSiSE Research Report, vol.38, no.5, pp.47-52.	プロジェクト型学習を行う授業で「Project勇者」を用いた結果，プロジェクト全体像理解及びプロジェクト中の不安解消に効果があったことを報告. 共著者：白澤秀剛，田中洋一 本人担当：アンケート調査
5.文系大学におけるオンデマンド型データサイエンス授業の設計：ゆっくり解説を用いた動機づけ	単著	令和5年12月	情報処理学会研究報告Vol.2023-CLE-41, No.2, pp.1-4	文系短期大学におけるオンデマンド型オンライン科目「データサイエンス入門」の授業設計，特に動機づけとして用いた「ゆっくり解説」について報告.
6.社会情動的スキルを身につけるキャリア科目の設計と評価―オンラインと対面との比較―	共著	令和5年7月	日本教育工学会研究報告集2023巻2号，pp.101-104	2021年度のリアルタイム配信授業と2022年度の対面授業における授業設計及び授業評価について比較する. 共著者：田中洋一，多川孝央，山川修，合田美子 本人担当：授業設計
7.大学連携で取り組む地域協働学習における心理的安全性の効果	共著	令和4年12月	日本教育工学会研究報告集2022巻4号，pp.251-254	福井県の大学が連携して取り組む地域の問題解決のための授業における2021年度授業設計及びClassroom Community Scaleの変化に関して報告. 共著者：田中洋一，山川修 本人担当:チームビルディング,評価
8.Withコロナな短大入学前学習の設計	共著	令和4年6月	情報処理学会研究報告Vol.2022-CLE-37, No.4, pp.1-4	COVID-19対策として実施したオンライン授業をふまえ，2021年度から修正した，地方私立短期大学における入学前学習プログラムの設計を報告. 共著者：田中洋一，澤崎敏文 本人担当：入学前学習プログラムの設計

9.大学連携で取組む地域の問題解決のための授業設計と評価	共著	令和4年5月	日本教育工学会研究報告集2022巻1号, pp.117-120	福井県の大学が連携して取り組む地域の問題解決のための授業における2021年度授業設計及び内発的動機づけ尺度の変化に関して報告. 共著者：田中洋一，山川修 本人担当:チームビルディング,評価
10.変革に適応するキャリア教育の設計：SELによるストレス対処力の変化	共著	令和4年5月	JSiSE Research Report, vol.37, no.1, pp.40-43.	オンラインのキャリア教育科目において SEL を設計したところ，主体的なキャリア形成に必要な進路選択自己効力及びストレス対処力 SOC の変化について報告. 共著者:田中洋一,多川孝央,山川修,合田美子 本人担当：授業設計
11.SDGsを学ぶマイプロジェクトの授業設計	共著	令和4年3月	仁愛女子短期大学研究紀要第54号, pp.9-15	生活情報デザイン専攻における SDGs を学ぶマイプロジェクトの授業設計,ICTを活用した授業運営について報告. 共著者:田中洋一,前田博子,澤崎敏文，橋本洋子，内山秀樹 本人担当：授業設計
12.変革に適応するキャリア教育の設計	共著	令和4年3月	JSiSE Research Report, vol.36, no.7, pp.19-22	Society5.0に対応する人材を育成するためにはSocial and Emotional Learningが重要と仮説を立て，遠隔で実施したキャリア教育科目における SEL の設計及び進路選択自己効力に関して報告. 共著者:田中洋一,山川修,合田美子 本人担当：授業設計
13.フィードバック誘起モデルの開発：量的アプローチによる推計式の試作	共著	令和4年3月	JSiSE Research Report, vol.36, no.7, pp.23-28	自己成長を促すうえで必要な良質なフィードバック（FB）をいかに引き出すことができるかに着目し，学習者がどのような準備をしてFBを誘起するかのモデルを開発. 共著者：可部繁三郎，田中洋一，山田政寛，石毛弓，山本佐江，合田美子 本人担当：変数の心理尺度
14.大学連携授業におけるプロセス・エデュケーションの設計：フィードバックの心理的安全性への影響	共著	令和4年1月	JSiSE Research Report, vol.36, no.5,pp.24-27	FAA科目「ファシリテーション基礎」におけるプロセス・エデュケーションの設計と実践結果を報告. 共著者:田中洋一,山川修,合田美子 本人担当：授業設計
15.幼児教育におけるeポートフォリオの設計	共著	令和3年7月	JSiSE Research Report, vol.36, no.2,pp.58-60	生涯教育に繋げるための，幼児教育における e ポートフォリオの設計について報告. 共著者：田中洋一，中尾繁史，増田翼，森本康彦 本人担当：全体統括

（その他） 【国際会議発表】 1.Designing and Assessing Course for Community Cooperative Learning in Fukui Academic Alliance: Development of UR Sheets（査読付）	共著	令和６年１月	The 9th IAFOR International Conference on Education in Hawaii(IICE2024)	This paper reports on the reflection sheet “UR Sheet” that we designed to facilitate the reflections along the ALACT model. The 23 students from four universities who participated in the class in the 2021 academic year showed a significant increase of 5% on the intrinsic motivation scale’s ‘sense of competence’ and ‘desire for competence’ subscales as a result of taking this class. 共著者：田中洋一，山川修 本人担当：地域協働学習の評価
【科学研究費採択】				
1.社会情動的スキルと安心感の向上を通じたエージェンシーの育成に関する研究	研究分担者	2025-2028	基盤研究(B)	本研究計画では，教育環境における実践的な安心感の育成方法を明らかにする．その上で，安心感の育成が学習にもたらす効果を質問紙やウェアラブルセンサなどを使い実証的に検証し，これらを応用して社会情動的スキルの向上と安心感の育成を通じて自律的学習者を育成する教育プログラムを提案する．さらに，安心感の育成と学習パフォーマンスとの関係の検証を行う． 研究代表者：多川孝央（筑紫女学園大学） 研究分担者：天野由貴，田中洋一，山川修
2.SEL のためのラーニングアナリティクス	研究分担者	2021-2024	挑戦的研究(萌芽)	本研究は高等教育の学習者を対象として，教育実践環境でのウェアラブルセンサ等を用いた学習者のデータ収集・分析により学習者の非認知的能力を評価することを介して SEL（すなわち社会情動的スキルの育成）を支援する方法（SEL のためのラーニングアナリティクス）を構築することと，およびそれに立脚し自律的学習者を育成する SEL の実践のためのプログラムを提案することを目指す． 研究代表者：多川孝央（九州大学） 研究分担者：田中洋一，山川修
3.データ駆動型・ナレッジ駆動型アプローチを融合させたフィードバック誘起モデルの開発	研究分担者	2020-2023	基盤研究(B)	本研究では，自身の成長のために有用なフィードバックを誘起するために必要な要因を明らかにし，体系的にモデル化することを目的としている．研究方法は，データ駆動型アプローチとナレッジ駆動型アプローチを組み合わせる．研究範囲は，学習者とフィードバック提供者の１対１の場面，研究会のような学習者と複数のフィードバック提供者がいる１対多の場面とする．また，フィードバックをもらう場面だけでなく，そ

				の前後の要因も含め，動的・静的なフィードバック誘起要因を同定する．本研究では，フィードバックの提供だけでなく，学習者からの働きかけにより，より質の高いフィードバックを誘起する手法を提案する． 研究代表者：合田美子(熊本大学) 研究分担者：山田政寛，石毛弓，田中洋一，山本佐江
4.深いアクティブラーニングのための心理的安全性尺度の開発と評価	研究代表者	2019-2023	基盤研究(C)	人材開発や組織論の分野では成功するチームの構築に最も重要なものは，心理的安全性であると言われている.「学生が他者と関わりながら，対象世界を深く学び，これまでの知識や経験と結びつけると同時にこれからの人生につなげていけるような学習」と定義される深いアクティブラーニングを教育分野で設計するためにも心理的安全性が重要なことを明らかにしたい．心理的安全性がどの程度のレベルであるかを調べ，学習成果物の質との関連性を分析するため，本研究では日本の高等教育における心理的安全性の尺度を作成し、評価することをめざす. 研究代表者：田中洋一 (仁愛女子短期大学) 研究分担者：山川修
5.ビッグデータ時代における異なる学習履歴データを共通の視点で分析する方法論の構築	研究分担者	2016-2019	基盤研究(B)	学習を分析することによりトップダウン的に，自律的学習者の学習モデルを提案し，いくつかの指標でその妥当性を確認した．このモデルには，内省，信頼，意味の３つの要素が含まれているが，その３つの要素の基礎には，アタッチメント理論で示されている Secure Base があるのではないかという仮説を提示している，このモデルを利用することにより，データを分析する上での共通の視点を与えることになる. また，上記のモデルを実証的に検証するため，ウェアラブル・センサーを使って効率よくデータ収集するシステムを構築した. 研究代表者：山川修(福井県立大学) 研究分担者：田中洋一，井上仁，多川孝央，徳野淳子，安武公一，隅谷孝洋
6.主体的な学習を習慣化するアクティブラーニング評価ｅポートフォリオシステムの開発	研究代表者	2016-2019	基盤研究(C)	基礎学力や学習意欲の低い学生がｅポートフォリオ学習を習慣化するため，経験学習に基づくリフレクション・プロンプトモデルを設計した. また，学生がｅポートフォリオに学習成果物を蓄積するサイクルを習慣化する仕組みとして，リフレクション・プロンプトモデルに従った対話が可能な振り返り支援 AI チャットボットを開発した. 研究代表者：田中洋一

				(仁愛女子短期大学) 研究分担者：森本康彦，宮崎誠， 山川修
7.生涯学習におけるスキルアップを支援するｅポートフォリオシステムの構築と実践	研究分担者	2014-2017	基盤研究(C)	生涯学習におけるスキルアップを支援するｅポートフォリオシステムの構築と実践を行った．海外の活用事例を参考にしつつ，日本の教育事情に応じた生涯学習支援ｅポートフォリオシステムの設計方針を明確にした．生涯学習で使用できるｅポートフォリオ構築のために，既存のサービスやツールを用いたｅポートフォリオ構築指標を作成した生涯学習におけるスキルアップ支援を実践しうるためのｅポートフォリオのプロトタイプを２種類設計した．一つは既存のサービスを用いたｅポートフォリオである．もう一つは生涯学習におけるスキルアップに焦点化したｅポートフォリオとして，読書に焦点を当てたｅポートフォリオシステムを設計・開発した． 研究代表者：平岡斉士(熊本大学) 研究分担者：中嶌康二，田中洋一， 松葉龍一，久保田真一郎， 桑原千幸，鈴木克明
8.真正な学習のために外部共同体を利用する学習環境のデザイン	研究代表者	2011-2013	基盤研究(C)	福井県内の高等教育機関連携プロジェクト「Ｆレックス」で形成している学習共同体を利用し，真正な学習環境を構築する実践研究を行った．Ｆレックスの基盤システムである，オープンソースのLMS (Moodle)，ｅポートフォリオ (Mahara)，SNS (OpenSNP) を連携した授業や学生支援の設計を行い，学習効果を分析した．真正な評価方法であるｅポートフォリオの実践事例を増加させるため，Mahara ユーザコミュニティや Mahara オープンフォーラムの運営に関わっている． 研究代表者：田中洋一 (仁愛女子短期大学) 研究分担者：山川修，鈴木克明
【国内学会発表】 1.創造性の要因を個々の体験から探る	共著	令和８年３月	日本教育工学会 2026 年春季全国大会	Safeology 研究所にて個人の創造性体験を語り，創造性の要素は何かを探る対話を続けている．５回の対話を生成 AI にかけ、創造性の要素を抽出した結果の分析を報告． 共著者：山川修，冨永良史，谷内眞之助，早川公，藤平昌寿，田中洋一，三井規裕 本人担当：大学のプログラミング科目における創造性
2. 参加者企画セッション：高等教育で取り扱う創造性のエッセンスは何か	共著	令和８年２月	第 32 回大学教育研究フォーラム発表論文集 pp.54	安心と創造性の関係に視点をおきつつ、それ以外の要因も洗い出すべく、話題提供者による「創造性を発揮した瞬間」のナラティブトーク及

				びディスカッション. 共著者：山川修，早川公，藤平昌寿，谷内眞之助，田中洋一，三井規裕 本人担当：話題提供「真似るから創造性を培うプログラミング科目における安心の設計」
3.学生におけるAPD（聴覚情報処理障害）の可能性と学習支援に関する一考察	共著	令和7年9月	日本教育工学会2025年秋季全国大会講演論文集pp.217-218	聞こえにくさのチェックシートを用いて，APD（聴覚情報処理障害）の可能性を調査したところ，予想以上に高い割合となった．この分析結果をふまえ，教員が対応すべき学習支援について考察. 共著者：田中洋一，中尾繁史 本人担当：調査設計・分析
4.観察によって他者の感情や思考に共感する授業設計	単著	令和7年8月	第50回 教育システム情報学会全国大会講演論文集pp.271-272	デザイン思考を学ぶ科目において，観察によって他者の感情や思考に共感する授業の設計及び学生の振り返りを報告.
5.参加者企画セッション：自律的な学びに「安心さ」が果たす役割とは	共著	令和7年3月	第31回大学教育研究フォーラム発表論文集pp.93	Safeology研究所の研究員が『自律的な学びに「安心さ」が果たす役割とは』というタイトルに基づき話題提供し，参加者と議論する. 共著者：山川修，冨永良史，藤平昌寿，早川公,田中洋一 本人担当：話題提供「安心・安全への3つのアプローチを用いたキャリア教育の授業設計」
6.プロジェクト型学習支援ロールプレイ教材の評価：不安の外在化によるストレス対処力の変化	共著	令和7年3月	日本教育工学会2025年春季全国大会講演論文集pp.239-240	プロジェクト型学習支援ロールプレイ教材「Project勇者」解決志向アプローチ版を授業で使用した際のストレス対処力の変化に関する報告. 共著者：田中洋一，白澤秀剛 本人担当：ストレス対処力の調査
7.ファシリテータのあり方を育成するための授業設計	共著	令和7年3月	日本教育工学会2025年春季全国大会講演論文集pp.243-244	あり方に重点をおいた大学連携科目「ファシリテーション基礎」の授業設計及びSOC（首尾一貫感覚）の結果を報告. 共著者：山川修，田中洋一 本人担当：プロセス・エデュケーションの授業設計
8.存在論的安心尺度の試作-ストレス対処力との相関-	共著	令和6年9月	日本教育工学会2024年秋季全国大会講演論文集pp.65-66	存在論的安心尺度試作版とストレス対処力尺度（SOC）との相関に関する報告. 共著者：田中洋一，磯和壮太朗，石井雅章，多川孝央，山川修 本人担当：心理尺度調査
9.存在論的安心尺度の試作：短大生に対するプレ調査	共著	令和6年8月	第49回 教育システム情報学会全国大会講演論文集pp.225-226	存在論的安心尺度試作版の短期大学生へのプレ調査結果の報告. 共著者：田中洋一，磯和壮太朗，石井雅章，多川孝央，山川修 本人担当：心理尺度調査
10.研究シンポジウム：自身の成長のために有	共著	令和6年3月	日本教育工学会2024年春季全国大会講演	学習におけるフィードバック(FB)の重要性を共有し，自身の成長を促す

用なフィードバックをどう誘起するのか			論文集 pp.9-10	FB をどう誘起できるか，FB シーカーに何が必要かを検討. 共著者：合田美子，石毛弓，山本佐江，可部繁三郎，田中洋一 本人担当：量的アプローチの検証，進行
11.プロジェクト型学習支援ロールプレイ教材の評価：不安へのサポート経験によるストレス対処力の変化	共著	令和 6 年 3 月	日本教育工学会 2024 年春季全国大会講演論文集 pp.245-246	授業でプロジェクト型学習支援教材 Project 勇者を使用した際のストレス対処力の変化に関する報告. 共著者：田中洋一，白澤秀剛 本人担当：心理尺度の分析
12.大学連携で取り組む地域協働学習のプログラム評価	共著	令和 5 年 9 月	日本教育工学会 2023 年秋季全国大会講演論文集 pp.413-414	福井県の大学が連携して取り組む地域の問題解決のための 2021 年度授業のプログラム評価に関する報告. 共著者：田中洋一，山川修 本人担当：プログラム評価
13.社会情動的スキルを身につけるキャリア科目の設計と評価 －ストレス対処力の変化－	共著	令和 5 年 8 月	第 48 回 教育システム情報学会全国大会講演論文集 pp.91-92	社会情動的スキルを身につけるキャリア科目として 2022 年度に対面で実施した授業設計及びストレス対処力の変化に関して報告. 共著者：田中洋一，多川孝央，山川修，合田美子 本人担当：授業設計及び評価
14.文系短期大学におけるデザイン思考科目の授業設計	単著	令和 5 年 3 月	日本教育工学会 2023 年春季全国大会講演論文集 pp.439-440	文系短期大学においてデザイン思考を学ぶ科目「情報デザイン総論」の授業設計について報告.
15.発表動画を活用した短期大学ゼミの授業設計	共著	令和 4 年 11 月	日本教育メディア学会 第 29 回 年次大会発表集録 pp.186-187	短期大学のゼミである「マイプロジェクト」や「卒業研究」の発表に YouTube や LMS を活用する授業設計に関して報告. 共著者：田中洋一，澤崎敏文 本人担当：ゼミの授業設計
16.習得主義にもとづく保育者研修の設計：デジタル・バッジの活用にむけて	共著	令和 4 年 8 月	日本教育工学会 2022 年秋季全国大会講演論文集 pp.143-144	開発したキャリア・ルーブリックに従うデジタル・バッジを活用した習得主義に基づく研修設計を報告. 共著者：田中洋一，中尾繁史，増田翼，天野慧 本人担当：研修システムの設計
17.大学連携で取り組む地域協働学習による情動知能の変化	共著	令和 4 年 8 月	第 47 回 教育システム情報学会全国大会講演論文集 pp.57-58	福井県の大学が連携して取り組む地域協働学習の 2021 年度授業では，内発的動機づけ尺度の下位尺度である有能感と有能欲求が 5%有意で向上した．本稿では情動知能の尺度である日本語版 WLEIS の変化を報告. 共著者：田中洋一，山川修 本人担当：授業評価
18.BYOD を活用した Problem Based Learning の設計	共著	令和 4 年 7 月	日本教育メディア学会研究会論集 第 53 号，pp52-55	主体的・対話的に衣・食・住・情報について深く学ぶため，シナリオを用いた PBL をどのように授業設計したか，リアルタイム配信（同期型）遠隔授業及び BYOD を活用した面接授業に関して報告. 共著者：田中洋一，前田博子 本人担当：授業設計

19.高校出前授業としてのマーケティング科目の設計	共著	令和3年10月	日本教育工学会2021年秋季全国大会講演論文集pp.275-276	高等学校の「総合的な探求の時間」にて，大学教員がマーケティングの授業を行った際のInstructional Design及び学習効果について考察. 共著者：田中洋一，澤崎敏文 本人担当：授業設計
20.オンラインでのキャリア教育科目におけるSELの設計	共著	令和3年9月	第46回 教育システム情報学会全国大会講演論文集pp.47-48	昨年度に実施した遠隔でのキャリア教育科目を，Social and Emotional Learningの観点でリデザインした2021年度の授業設計を報告. 共著者：田中洋一，山川修，合田美子 本人担当：授業設計
21.幼児教育におけるeポートフォリオの可能性	共著	令和3年7月	日本教育メディア学会研究会論集 第51号，pp27-30	eポートフォリオを幼児教育に導入した場合，保護者及び保育者がどのように支援して，幼児自身がセレクトするショーケース・ポートフォリオを作成すべきかを報告. 共著者：田中洋一，中尾繁史，増田翼，森本康彦 本人担当：全体統括
22.保育者養成課程における同期型遠隔授業の設計：SELの効果	共著	令和3年5月	日本保育学会第74回大会発表論文集 pp.P267-P268	幼児教育学科科目「教育の方法と技術」にマインドフルネスを取り入れた効果を情動知能尺度にて分析. 共著者：田中洋一，香月拓，木下由香，乙部貴幸 本人担当：授業設計，評価
23.２年制保育者養成カリキュラムについての検討②-高校の学びと初年次の学びとの接続について-	共著	令和3年5月	日本保育学会第74回大会発表論文集 pp.P529-P530	幼児教育学科１年次科目担当教員を対象として，高校の学びとの繋がりの意識調査を実施した結果を報告. 共著者：香月拓，田中洋一，松川恵子 本人担当：分析方法への助言